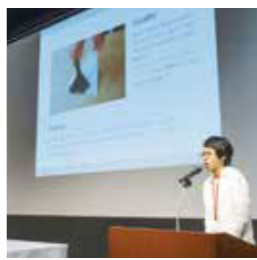


民芸に魅せられた若き匠が次代に繋ぐ 一度は失われた「中津箒」

吉田 慎司 神奈川／中津箒職人・作家

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催：LEXUS)は、日本各地で地域の独自性や伝統技術を生かし、新しいモノづくりにも挑む「匠」を応援する。



作品プレゼンをする吉田さん

本プロジェクトは2016年、放送作家として「料理の鉄人」などの多くのヒット番組を手がけ、またくまモンの生みの親でもある小山薫堂氏をプロジェクトのスーパーバイザーに迎え、隈研吾氏(建築家/東京大学教授)、生駒芳子氏(フッショナル・ジャーナリスト/アート・プロデューサー)、下川一哉氏(意匠研究所)らをサポートメンバーに発足。

昨年度は、52名の匠によるプロダクトが誕生。若き匠の挑戦が刻まれたプロダクトは、ふるさと納税の返礼品への採用や、ロックフェラー家主催のチャリティイベントへ出品されるなど注目を集め、匠自身もTVやwebメディアへの掲載など目覚ましい活躍を見ている。

2年目となった今年は、全国47都道府県から計51名の若き匠が選出。昨年度、レクサスギャラリー高輪で行われたキットオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバ

レクサスが日本全国の「匠」のモノづくりを応援

1月17日に都内で行われた商談会では、百貨店・セレクトショップバイヤー・メディア・デザイン関係者などに向けて半年間をかけて製作した自身のプロダクトをプレゼンテーション。世界へ羽ばたく足がかり、ビジネス拡大のきっかけとなる大きなチャンスを手にした。

また、商談会の終盤ではビームスジャパンとのコラボレーション企画「LIFE with NEW TAKUMI」新しい匠、新しい暮らし」が発表されるなど、プロジェクトも進化している。

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。LEXUSが掲げる「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。神奈川県選出の匠、中津箒職人の吉田慎司さんのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。

新しい箒の形「CUROKO(クロコ)」

「暮らしを整え、慈しみ、丁寧に暮らす日本の心が箒には宿っています」と、中津箒職人の吉田さんは穏やかながらも熱量のこもった声で語る。完成したプロダクト「CUROKO」は目にした人、誰もが驚くブラックの箒だ。くらしを支える緑の下の力持ちというコンセプトのもとに作られた。

「伝統的な民芸品である中津箒を、現代社会の日常生活で使って欲しい」という思いから、手のひらに収まる「カワイイ」サイズで、黒染めの「クール」なデザインにした。

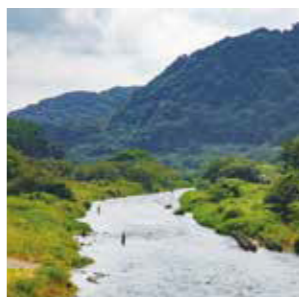
オフイスのデスク上や、食卓でも気軽に使える大きさに仕上がった「CUROKO」には、シンプルなちり取りが添えられた。箒とは対象的な真っ白な樹脂を三角形にカットしただけの、シンプルさを追求した形だ。掃き清めるための天然素材で作られた箒を、現代の技術で染め、現代の材料と組み合わせることで、伝統工芸に新たな息吹が吹き込まれたのだ。

蘇った中津箒を受け継いでゆけ

神奈川県中央部にあった中津村(現、愛川町)で明治時代に始まったのが、箒作りだ。箒の原料となる「ホウキモロコシ」の栽培と箒作りは農家の副業として歓迎され、昭和20年代までには、中津村の一大産業になるまで発展した。しかし、戦後の



中津箒博物館を正面で見る



博物館の近くには中津川がある

生活スタイルの変化や、安価な工業製品の箒の出現により、中津箒は昭和の後半には消滅していった。

「かつての中津箒は広い床を掃いたり、かまどの灰の掃除などに使われていましたが、現在はホウキモロコシを編む密度を高めて、机やテーブルなどでも使えるコンパクトな箒を多く作っています」と話す吉田さんは、中津箒が時代のニーズと足並みを揃え進化していることを強調する。

天然素材へのこだわりと葛藤

「素朴な日常の道具にも美を見出す日本独特の世界観を」



手でしっかりと素材を確かめて作っていく

に託して、人々の感性をより豊かにするライフスタイルを提案したい」そんな想いで吉田さんがLEXUS NEW TAKUMI PROJECTに応募した。

2017年6月29日に開催されたキットオフ・セッションでは、吉田さん自らプロダクトのコンセプトのプレゼンテーションを行い、個別セッションが行われた。

個別セッションでは、吉田さんの考えるコンセプトに対してアイデアを出し合った。「黒だ！黒がかっこいい」とニコラ氏が新たな色味を提案。生駒氏は「シンプルブランド名も重要。まずはどんな試作してみてください」とアドバイスを送った。

8月30日、生駒氏がエリア・コンサルティングで訪れた愛川町の中津箒博物館で試作品が披露目された。

「箒を結ぶ糸の染色やサイズのアレンジなどはこれまでもありましたが、素材そのもの



生駒氏からアドバイスを受ける



黒染めが美しい「CUROKO」。ちり取りはシンプルさを追求



密度を高めて編んでいく

最後のアドバイスを受ける機会でもある。「箒よりちり取りの存在感が強い」。サポートメンバーから出たコメントは、箒にはなく、組み合わせに添えたり取り取りに対してのものであった。「プロダクトとして完成するために、トータルバランスも重要なのだ」と妥協を許さぬ激励の言葉だった。

伝統工芸への入口を目指して

2018年1月17日、ついに迎えたプレゼンテーション。そこで発表した「CUROKO」に、多くのバイヤーが斬新なカラーに驚きの表情を浮かべつつ、天然素材の優しさと、匠の手によるしっかりとした造型を手にとり確かめていた。

これまでも中津箒の素晴らしさと民芸品に込められた合理的な知恵を伝えてきた吉田さん。伝統工芸に触れてもらうきっかけとして「CUROKO」には期待が詰まっている。「永く愛することのできる生活道具や暮らしの中にこそ豊かさがある」。若き中津箒職人、吉田さんのチャレンジは続く。

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会



スーパーバイザー 小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。伝説の深夜番組「カノッサの屈辱」でその名を世間に広め、「進め!電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。「くまモン」の生みの親でもある。



1月17日、プレゼンテーションにて



箒の原料となるホウキモロコシ



吉田 慎司 神奈川／中津箒職人・作家

1984年東京練馬生まれ。2007年武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業後、中津箒に出会い元京都支店の職人に箒を学ぶ。その後、まちづくり山上入社。以降、展覧会、ワークショップ、講演、クラフトフェアなどを全国で展開。2008年 SICF (スパイラルインデペンデントクリエイターフェスティバル) 準グランプリ受賞。2011年日本民藝館展入選、準入選。

LEXUS
NEW
TAKUMI
PROJECT